



窯と西側で確認されたものと2箇所あります。

**愛宕郡** 外来の秦氏や高麗氏の勢力が及んでいきましたが、出雲氏・鴨氏・日置氏など在地の氏族たちも各郡内で勢力を広げていました。

はじめに北白川廃寺についてみてみましょう。この寺は粟田郷に所在し、粟田氏の氏寺に想定する説があります。段丘で東西に段差がある地形の関係から寺域が東西に分かれています。東方の伽藍では南北辺の中央に石組みの階段をもつ瓦積基壇建物、西方伽藍では、最初は瓦積であったものを後に石積の基壇に改修した正方形の塔基壇(写真2)・溝・築地などを確認しています。瓦は北白川廃寺瓦窯の他、岩倉盆地に点在する瓦窯から供給されていたことがわかっています。

周辺には寺との関係が考えられる小倉町別当町遺跡があり、住居跡が発見されています。

出雲郷には、出雲氏の氏寺と推定される出雲寺跡があります。発掘調査は進んでいませんが、境内

の立会調査で出土した瓦から、西賀茂の蟹ヶ坂瓦窯で生産されたことがわかりました(写真1)。

八坂郷には渡来系氏族八坂造によって法観寺が建立されました。室町時代に再建された塔が残っており、「八坂の塔」として親しまれています。

折田郷土車里には頂法寺が建立されました。聖徳太子によって杉の巨木で創建された六角堂は、平安京造営時に条坊の邪魔になったので一夜のうちに自ら五丈も移動したという説話を伝えています。

**宇治郡** 山科盆地では、須恵器の窯跡が数基確認されており、日ノ岡堤谷須恵器窯跡を昨年発掘調査しました。周辺には陶田里という条里名が残っており、須恵器の生産者集団の生活の場であったことや、中臣鎌足の邸が陶原の家と称されていたことから、中臣氏との関係が深かったことがうかがえます。

中臣氏の山階寺、または大宅氏の大宅寺に想定されている大宅廃寺では、石積基壇・掘立柱建物などを確認しています。

このように有力氏族によって在地の開発が積極的に進められていました。しかし、奈良時代末期に桓武天皇は強大化した仏教勢力を嫌い平城京を廃都にしました。そして理想とする新しい律令国家の樹立をめざして、都を平城京から長岡に移しました。そして、「山背」の国名を「山城」に改めるなど、平安京誕生の準備が着々と進められていきました。(桜井 みどり)



- 遺跡位置図
- 1元船寄窯跡
  - 2深泥池瓦窯跡(ケシ山窯跡)
  - 3蟹ヶ坂瓦窯
  - 4北白川廃寺・瓦窯跡
  - 5小倉町別当町遺跡
  - 6出雲寺跡
  - 7北野遺跡
  - 8北野廃寺・瓦窯跡
  - 9広隆寺
  - 10頂法寺
  - 11法観寺
  - 12日ノ岡堤谷須恵器窯跡
  - 13中臣遺跡
  - 14大宅廃寺・瓦窯跡
  - 15法琳寺跡・瓦窯跡
  - 16おうせんどろ廃寺
  - 17櫻原廃寺・瓦窯跡
  - 18南春日町廃寺
  - 19乙訓寺



写真1 蟹ヶ坂瓦窯(東から)



写真2 北白川廃寺西方伽藍の塔跡(北から)